

開講科目名	臨床実習3			開講区分	単位数
成績入力担当	児玉 裕三			後期	20.0単位
ナンバリングコード		曜日・時限等	他(対面)	時間割コード	3M988

授業のテーマ

これまでの基礎および臨床医学の授業、臨床実習1・2の学修にて獲得した知識、技能、対人スキルを活かし、大学病院および地域の病院の、学生が希望するすべての診療科において、主治医団の一員、臨床実習生（医学）として診療に参加する。各科、2もしくは4週間ずつの実習とし、継続的なクリニカル・クラークシップを行う。学生は指導医の指導・監視の下で一定の範囲内の医行為を実践することができる。この実習を通して、医師としての根幹となる【臨床研修開始時に必要とされる技能と態度】、卒業研修につながる臨床能力を獲得を目指す。

授業の到達目標

神戸大学医学部医学科コンピテンスⅠ、Ⅲ、Ⅳの下記コンピテンス項目を主な学習目標とする。

- Ⅰ-1 医師としての責任感を持ち、謙虚に自らを律して行動する。
- Ⅰ-2 医師としての業務に限らず、医師・医療人としての責務および社会からの期待を意識し適切に行動する。
- Ⅲ-4 人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。
- Ⅲ-5 国民皆保険の意義を理解し、保険診療に関する法令に従って、医療の経済性に配慮しながら診療を行うことができる。
- Ⅲ-6 高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・診断・治療・予後の知識を修得し、適切な診療ができる。エビデンスを吟味し臨床判断に応用できる。
- Ⅲ-7 患者の立場を尊重し、病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行う。
- Ⅲ-8 網羅的に系統立てて効率的な身体診察を行い、所見を認識・記録し、適切な鑑別診断を行う。
- Ⅲ-9 基本的な臨床技能について、適応、実施方法、合併症等を理解し、適切な態度でこれを安全に実施できる。
- Ⅲ-10 患者の苦痛や感情に配慮しながら、患者と家族に対して誠実で適切な支援を行う。
- Ⅲ-11 診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型診療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
- Ⅲ-12 患者の病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と情報共有が出来る。
- Ⅲ-13 緊急を要する病態や疾病・外傷の基本的知識を修得し、医療チームの一員として救急医療に参画する。
- Ⅲ-14 慢性疾患の病態・経過・治療を理解し、医療を提供する場や制度に応じて、医療チームの一員として慢性期医療に参画する。
- Ⅲ-15 医療関連感染の予防対策を実践し、発生時の初期対応ができる。
- Ⅲ-16 医療における患者や医療者の安全を守るために、個人的・組織的な対応ができる。
- Ⅲ-17 組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、その改善と向上を図る。
- Ⅳ-1 医療人としての倫理に関する基本的な知識を修得し、社会の変遷を踏まえつつ、常に自己の行動を律することができる。
- Ⅳ-3 医療者として常に利益相反が生じる可能性を認識し適切に対処できる。患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たす。

学内の診療科における実習の到達目標については、配布するガイドに記載する。

授業の概要と計画

本実習は対面で実施する。

原則として、神戸大学医学部附属病院及び関連病院において、クリニカル・クラークシップを行う。

学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施する。

個々の学生に対して臨床系の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容について学生と話し合い、適宜指導を行う。

チューターの承認のもと、その他の実習病院や海外でのクリニカル・クラークシップも一定期間（原則1か月まで）認める。

神戸大学医学部附属病院における実習内容については、配布するガイドに記載する。

関連病院における実習内容については、クリニカル・クラークシップを基本として実習先のプログラムに従う。

本実習終了後には、臨床実習の総まとめとして、臨床実習発表会を開催する。学生は全員参加を必須とする。

また、海外実習を行った学生は、海外実習報告会への参加も必須とする。

成績評価方法

実習指導医・教員およびチューターが、評価表を用いて評価する。
各施設、各科の実習指導医、教員が評価を行い、最終成績はコーディネーターが決定する。

①実習評価表

②病歴要約（各科で1症例）、外科手術症例では手術記録も作成
上記を総合して評価し、最終成績とする。

成績評価基準

医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床能力を獲得できたかを評価する。

- ・技能と態度については上記①を用いて評価する
- ・症例の包括的な理解、考察力については②を用いて評価する
- ・①②から臨床能力の獲得について総合的に評価し、最終成績とする

履修上の注意（関連科目情報）

実習施設、診療科は事前に学生の希望により決定する。プログラムについては配布するガイド、BEEFに記載する。

事前・事後学修

医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）に準じた、診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.0版）を読んでおくこと。

オフィスアワー・連絡先

チューターと各自連絡をとること。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

実習に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。

参考書・参考資料等

医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）に準じた、診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.0版）（2022年12月）

授業における使用言語

日本語

キーワード

臨床実習、クリニカル・クラークシップ